

はじめに

21世紀の協同のために

1991年2月に協同総研を設立してから、4年目の総会を迎えます。本総会は、理事長の交替に象徴されるように、組織にとって大きな節目となる総会です。この4年間で振り返り、現在の到達点を確認して、21世紀の協同のための研究所の位置を考えてみたいと思います。

壮大な野心と試行錯誤の4年間

協同総研は、黒川理事長が慶応大学教授の時代に開いた「地域コミュニティ・労働者協同組合研究会」と「いま『協同』を問う」集会を源流として発足しました。

本研究所は、

①「人類の危機」という時代認識にもとづいて、その危機を克服する、変革の立場に立った協同運動の研究を任務とし、

②「労働者協同組合」や新しい協同運動に力点をおきつつも、協同運動全体、ならびに労働運動や市民運動をも視野にいられた「協同を総合的に研究する」という野心的な課題を掲げ、

③その組織形態自身を、研究者と実践家がともにつくる「文化・研究協同組合」として自己規定しました。

それは、民衆の「シンクタンク」であるとともに、民衆的な学習運動の機関となり、さらに青年・学生に協同運動への呼びかけを発信する基地を創造することをめざすものでした。

ただ、その壮大な野心に比して、組織基盤はきわめて弱く、新しい研究・学習のコーディネートノウハウも力量も未熟で、試行錯誤を余儀なくされました。



いま成熟しつつある

「協同総合研究」の基盤

しかし、そうした中でも、研究所の基本方向を一步一步具体化してきました。

何よりも、協同の多くの実践家が、幅広い視野と理論的視点から自分たちの実践をとらえなおし、言語化して、実践をいっそう発展させるといふ作風を身につけるとともに、研究者が生活と時代の中からわきおこって、もがくように営まれている民衆の協同の実践を、共感をもって受け止め、その意味と発展方向を示唆して、実践家を勇気づけるという、実践と理論の相互交流が始まったことです。

「人類の危機」を克服する方向もまた、有機農業と食をめぐる連携から、環境保全型機器とシステムの開発、高齢者・障害者をはじめすべての人が人間らしく生きられる協同のネットワークとまちづくり、人間性の回復と発達を核心にすえた教育・文化の協同など、地に足が着いた形で具体化・実践化されつつあります。

「協同総合研究」運動の条件は、時代の状況と、主体の要求の双方から、いま確実に成熟しつつある、と言うことができるでしょう。

第1に、労働のつくりかえ、仕事おこしが、かつてないほど多数の人びとの要求となり、また大きく幅を広げながら現実に進展しつつあることです。

第2に、働く者の協同活動と、ボランティア活動や市民的な支援が結合する「非営利・協同の大連合」が日本社会のなかに姿を現わしつつあること。

第3に、協同運動が、地域づくりの視野をもち、住民自治の発展と結ぶことが不可欠となっていること。

第4に、地域づくり・仕事おこしの運動が、「労働者協同組合法」という形で法の制定と国政の展開を要求するに至っていること。

そして第5に、学生諸君のなかで、「新しい働き方・生き方」への欲求が確実に高まっていることです。

「生命・労働・地域の再生」めざす

「非営利・協同の大連合」へ

折りしも本年1月には、阪神大震災が発生し、生命と生活を軽視した、大量生産・大量消費・大量廃棄の体制と、巨大都市開発の虚構性を白日の下にさらすとともに、金では計ることのできない人と人との協同や連帯こそが、生命と生活を支える根源的な力であることを示しました。

震災後の日本社会は、その底流で、ある種の精神と文化の変容を経験しつつあるように思います。東京都における「都市博」の中止と、臨海副都心開発の見直しへの機運の高まりは、その一つの現われではないでしょうか。

いずれにしても、こうした変化への予兆をとらえて、これを「生命・労働・地域の再生」に確実に転化するために、「非営利・協同の大連合」が求められているものと思われます。そのための研究・交流・学習のネットワークづくりにむけた、協同総研の役割は、いよいよ大きくなるうとして

います。

会員のみなさんが、協同総研を共通の場として、ともにこれらの課題に取り組んでいただくことを、心から訴えます。

シーアンドシー出版

仕事おこしのすすめ

池上 博著 定価一三〇〇円

「農」の破壊とあきらめのなかで、新しい生命カリ「産直」をおしすすめる全国各地のフロンティアの姿は、「日本の大地」に深く人と人とのネットワークを広げる協同・共生の未来と都市へのメッセージ。

産直新世紀

●こだわりの「農と食」をつくる人びと

山田達夫・矢吹紀人著 四六判 一六〇〇円

シーアンドシー出版

☎03(5261)8781 FAX03(5261)8784
〒112 東京都文京区関口1-7-5-401
(書店発売元=生活ジャーナル社)